



# 令和元年の同窓会活動



## 同窓会長 後藤 信義

昭和47年度 英語英文学科 卒業

### はじめに

会員の皆さまにおかれましては、ご健勝にて、ご活躍のこととお慶び申し上げます。日頃は、「岐阜大学教育学部同窓会」の活動にご支援・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

この度は、吉田政直氏の後を受け継ぎ、会長職を拝命いたしました。身の引き締まる思いであります。どうぞよろしく申し上げます。

### 志縁と後輩への支援

縁というのは不思議なもので、この二月まで、英語英文学科・英語教育講座(通称ランタン会)の同窓会長を六年間務めました。次へのバトンタッチを無事終えたら、今度は教育学部全体の同窓会のお世話をする事になりました。

今、組織を維持していくことは、困難な時代になっています。しかし、誰かが担当しないと継続されません。そんな中で、最近「縁」ということを常々考えています。我々は、様々な縁で結ばれています。親族関係の血縁、地域の縁、職場の縁、子どもを通しての親同士の縁など様々です。では、同窓会は何の縁でしょうか。もちろん、同じ学舎で過ごした縁ですが、同じ志を抱いて入学し、ともに影響を与え合った縁ではないでしょうか。すなわち志縁です。毎年、多くの新生が入学してきますが、「志」は今も昔も変わりません。

是非、同じ志の後輩を全力で応援していきたいと思えます。

### 各学科の同窓会の活動の発展・充実

会報でお伝えはしていますが、各科の同窓会の開催及び活動に温度差があります。毎年実施されている学科もあれば、2～3年に一度やほとんど活動されていない学科もあります。また、活動の内容も、卒業論文・修士論文の発表会や記念講演そして懇親会等、様々な工夫がされています。令和に年号も変わりました。この「学科のつながり」を求めて、後輩の皆さんも同窓会に入会される一面があります。会長や評議員の皆さんを中心に、各学科の同窓会を開催し、充実させてください。

### 教育実践研究論文の実施要項の大幅な変更

働き方改革や応募者数の減少などの流れの中で、学校・関係機関からのご意見を伺いながら、岐阜大学教育学部同窓会発行の論文募集要項について、大幅に改訂をしました。最大の変更点は、本文の論文枚数を10ページから6ページに変更したことです。体験知と理論知を融合して理路整然とまとめられた実践知の論文を期待します。詳細については、実施要項を参照してください。

### 岐阜大学創立70周年記念事業

令和元年6月1日に、大学の創立70周年記念事業が同窓会連合会を中心に開催されました。改めて、新制大学として発足以来、東海地方の中規模総合大学として、その地位を確立していることを実感しました。

なお、前同窓会会長の吉田政直会長が、連合会会長として重責を果たされていることも我々にとって誇らしいことです。教育学部同窓会も同窓会連合会の一翼を担っていることを念頭に入れて、教育学部同窓会も充実していきたいと念じています。



【令和元年6月1日 岐阜大学創立70周年記念式典の様子】



【前教育学部同窓会会長・現同窓会連合会会長 吉田政直氏】

# 教育学部・教育学研究科の 一層の充実を



教育学部長 別府 哲

まずもって、同窓会の皆様には、今年6月に行った岐阜大学創立70周年記念行事に向けた取り組み(寄付金を含め)で多大なご協力をいただき、誠にありがとうございました。おかげさまで、記念式典も含め、盛大に執り行うことができました。あらためてお礼を申し上げます。

以下では、教育学部・研究科の現状と取り組みについて、簡単にご紹介させていただきます。

## 「ぎふ清流入試」を実施しました

昨年度の入試より、表記の入試(定員42名)を始めました。この入試は、「卒業後に岐阜県内の教育現場で活躍する」ことを、入試の際に、学修計画書と面接で丁寧に確認し、センター入試とあわせて選抜するものです。岐阜県内の高校を中心に、多くの方に受験いただきました。入学した学生は、教員への意欲が非常に高い学生ばかりで、周りの学生にも大きな刺激を与えています。教員養成学部・研究科は、小中学校を中心とした教員を育てる学部・研究科であることをより明確にすることが、今後より強く求められています。その意味でも、この「ぎふ清流入試」は重要です。これから、一層発展させる所存です。

## 附属小・中学校を、令和2年度より義務教育学校(名称・岐阜大学附属小中学校)とすることになりました

附属学校については、大学と附属学校の連携を強化し、地域のモデルとなる教育・研究を行うこと、そしてそれを大学教育にも還元することが求められています。それにこたえるため、令和2年度より附属小・中学校を義務教育学校(名称：岐阜大学附属小中学校)とすることになりました。

平成28年の学校教育法改正により、小中一貫校を一つの学校として位置づけることが可能になりました。その中でも、小中一貫学校と異なり、義務教育学校となると、①学校独自のカリキュラムを工夫する幅が増える、②教員のマンパワーを活用し教科担任制などを柔軟に仕組むことができる、という利点があります。

岐阜県内では、現在ある、地域での統合型の義務教育学校(白川村立白川郷学園・羽島市立桑原学園)に加え、都市部でも義務教育学校の動きが出てきています(新聞報道では、北方町など)。一方、義務教育学校にする際の課題は、9年一貫のカリキュラムを、独自性を持ちながら作成するところにあります。岐阜大学附属小・中学校が、義務教育学校になることは、この都市部での義務教育学校のモデルとなるものです。またその課題であるカリキュラムは、大学と連携して作るという利点も持っています。

これまで岐阜大学附属小・中学校が築き上げてきたものをしっかり継承・発展しつつ、附属と大学が一体となって、取り組んでいきます。

## 学生一人一人に寄り添い育てる大学に

もう一つだけ付け加えさせていただきます。やはり一番大切なのは、学生・院生の教育の質を高めることです。入学した学生・院生が「この学部(研究科)にきてよかった」と思って卒業(修了)してもらえるようにすることです。

ある3年生が教育実習に行きました。研究授業で頑張ったのですがうまくいかず、落ちこんでいました。しかし、そのクラスに人間関係を作るのが難しい子がいたのですが、その学生は休み時間にそういう子たちととてもうまくかかわっていました。実習校の先生がそれをしっかりわからせ、「君、子どもとかかわるの、とても上手だね」とほめてくれた。その学生は教員になるか迷っていたのですが、その一言で「教員になろう!」と思えた、と後で語ってくれました。

教師は、子ども一人一人と丁寧にいかわり、その育ちを応援します。それは一人一人のよさを見出して伸ばし、壁を乗り越え挑戦する力を引き出します。これは、大学教員・職員の学生(院生)に対する姿勢でも同じです。制度を変えるだけでなく、教育の中身を充実させる。それがもっとも重要な点だということを自戒しつつ、さまざまな課題に取り組んでいきたいと考えております。皆様の変わらぬご支援をどうかよろしく願いいたします。

# 令和元年度 岐阜大学教育学部同窓会役員

役員		
会長	後藤 信義	S47 英語
副会長	黒田 隆吉	S47 地学
	清水 優子	S50 家政
	矢嶋 英敏	S51 英語
	村瀬康一郎	S53 数学
理事	吉田 政直	S47 体育
総務部会	◎ 村瀬康一郎	S53 数学
	○ 高木 敏彦	S48 史学
	高橋 和子	S49 美術
	森 社	S51 化学
	河合 鋭夫	S52 技術
組織部会	◎ 加藤 直樹	S54 物理
	○ 高橋 忠明	S48 技術
	和合 保	S54 数学
	興戸 律子	S54 数学
事業部会	◎ 原 尚	S53 体育
	○ 末松 豊生	S54 教育
	林 敦郎	S50 国語
	小野木 卓	S53 哲学
	大塚 弘士	S54 史学
	森 透	S55 地学
	松井 徹	S56 数学
広報部会	◎ 今井 亜湖	H 8 技術
	○ 竹市 安彦	S49 美術
	大石 英文	S49 国語
	古田 信宏	S54 教育
	菱川 洋介	H16 数学
監査	石子 裕朗	S45 体育
	古田 雅通	S47 国語
	近藤栄美子	S53 家庭

◎部会長 ○副部会長

評議員		
国文	遠山 健二	S62
	吉永 康昭	H5
	富山 哲成	H8
	大前 剛士	H16
	丹下 侑輝	H19
史学	友田 靖雄	S40
	旭 健	S47
	高木 敏彦	S48
	武藤 貞昭	S49
	川部 誠	S52
地理	小牧 直樹	S50
	豊島 博	S58
	堀江 秀樹	S58
	新井 恒雄	H6
	村井 俊之	S56
法経	横田 稔	S57
	清水 泰浩	H2
	丸山 靖生	H3
	古川 徹	H19
	近藤 新八	S43
哲学	柘植 卓伸	S52
	國定 幸敏	S53
	榎井 奈津子	H 元
	奥村 直也	H5
	額 政昭	S48
数学	中川 敏之	S50
	日置 貢	S53
	熊崎 盛敏	S55
	名取 康夫	S57
	奥田 好紀	S56
物理	若曾 根 隆	S58
	堀部 昇	S61
	市原 隆行	H2
	竹腰 宣行	H3
	興戸 浩道	S54
化学	服部 公彦	S57
	白木 和雄	S59
	酒井 茂	S61
	田辺 美樹	S61
	安藤 志郎	S43
生物	大野 伴和	S52
	井上 好章	S53
	渡辺 寛樹	H9
	細江 達三	H18
	小栗 敬彦	S42
地学	水谷 憲司	S55
	森 透	S55
	古田 靖志	S58
	武藤 正典	H11
	棚橋 弘	S48
音楽	山田真紀子	S54
	羽土 聡	S58
	丸山 真姫	S59
	杉本 公彦	S61
	國枝 俊介	S44
美術	竹市 安彦	S49
	水谷 啓	S55
	鬼頭 立城	S60
	清水 也人	H 7
	野原 正美	S55
体育	清水 康孝	S59
	中村 俊彦	S61
	見山 政克	S62
	高橋 茂洋	H 6
	伏屋 敬介	S45
技職	高橋 忠明	S48
	清水 茂樹	S58
	吉田 竹虎	S62
	淀川 雅夫	H7
	杉山 恵子	S48
家政	清水 優子	S50
	安藤 絵美	H15
	小林 明奈	H16
	坂 真紀	H17
	深尾 雅人	S57
英語	高橋 清仁	S58
	服部 照	S58
	山下 敦子	S60
	酒井 猛	S63
	安田 和夫	S53
教育	柳川 禎章	S53
	神谷 弘子	S53
	松井みどり	S54
	江崎 麻美	S61
	宮脇 修	S24
師範男子	安藤 俊夫	S25
	石田 幸彦	S24
青年師範	今井 昌喜	S25
	服部 真六	S26

理事		
国文	曾我部領史	H8
史学	武藤 貞昭	S49
地理	小牧 壽	S45
法経	山本 讓	S48
哲学	谷本 龍馬	S50
数学	中村 昌秀	S49
物理	鈴木 雅史	S50
化学	桐村 良昭	S53
生物	小椋 郁夫	S49
地学	岩田 將之	S48
音楽	棚橋 弘	S48
美術	竹市 安彦	S49
体育	武藤 哲夫	S38
技職	伏屋 敬介	S45
家政	杉山 恵子	S48
英語	高橋 清仁	S58
教育	古田 信宏	S54
師範男子	宮脇 修	S24
青年師範	安藤 俊夫	S25
	石田 幸彦	S24
	服部 真六	S26

(令和元年9月30日現在)

## 令和元年度 岐阜大学教育学部同窓会評議会報告

日時 令和元年6月2日(日) 10時から  
 場所 教育学部本館7階 第一会議室  
 出席者等 評議員・理事・役員 153名(内委任状出席87名)  
 会議 議事については、議長として高橋忠明氏を選出し、以下の事項について審議した。



- 平成30年度事業報告**  
村瀬総務部会長、興戸組織部会長代理、矢嶋事業部会長代理、竹市広報部会長から資料に基づき報告があった。
- 平成30年度決算報告**  
村瀬総務部会長から30年度の会計決算報告があった。
- 会計監査報告**  
増田会計監査から、会計監査の結果、予算の執行管理等適切に行われている旨の報告があった。
- 事業報告及び決算の承認**  
審議の結果、報告の通り30年度事業と決算が承認された。
- 次期同窓会長の選出について**  
会長推挙委員会竹市委員長より、次期会長に後藤信義氏を推挙する旨の報告及び推挙理由についての説明がなされた。これを受け、審議の結果、後藤信義氏を次期会長として決定した。
- 新同窓会長挨拶**  
新同窓会長に決定した、後藤信義氏からの挨拶。
- 新役員決定承認と報告**  
後藤同窓会長より、新役員提案があり、これを承認した。
- 旧役員挨拶・紹介**  
前同窓会長より挨拶があり、旧役員紹介がなされた。  
※※役員交代※※
- 令和元年度事業計画**  
村瀬総務部会長、興戸組織部会長代理、原事業部会長、今井広報部会長から各部の事業計画の提案がなされた。
- 令和元年度予算審議**  
村瀬総務部会長から、令和元年度予算についての提案がなされた。
- 事業計画案及び予算案の承認**  
審議の結果、令和元年度の事業計画と予算を承認した。
- その他**

# 平成 30 年度 教育学部同窓会活動報告

月	総務部会 等	組織部会	事業部会	広報部会
4	7 入学式	● 役員変更状況確認	● 第33集印刷開始 ● 教育研修課との打合せ ● 臨時部会；数回	
5	26 監査・運営委員会		● 第33集発刊 ● 第33集に係る教育研修課への依頼 22 第33集配布作業	
6	1 岐阜大学創立記念行事 2 理事会・評議会の開催		● 教育事務所長会, 県小中校長会役員会に協力依頼 ● 県教委へ後援申請	3 第1回部会 (担当分担, 細部打合せ)
7		● 会費未納者再請求 ● 1年生IDパスワード配布	● 県教職員互助会へ助成金申請	● 担当者より会報の原稿の作成依頼
8	9 拡大運営委員会			
9				● 印刷業者の選定
10			● 教育事務所訪問 ● 総合教育センター長訪問	● レイアウト, 挿絵, 配置など 22 第2回部会 (編集会議)
11			● 審査依頼；都市教育長会長, 町村教育長会長, 県小中校長会長, 同小校長会長, 同中校長会長	● 会報の原稿の校正 (初校) ● 会報の原稿の校正 (2校)
12		● 会費未納者再請求		● 同窓会報第24号発行・発送
1	10 拡大運営委員会			
2	23 臨時理事会		15 論文概要入手, 予備審査, 最終審査資料作成	
3	25 教育学部同窓会入会式 及び卒業生との懇親会		5 第二次審査会 13 最終審査会 ● 第34集発刊手続き開始	

## 平成 30 年度教育学部同窓会決算報告

### ●一般会計

＜収入の部＞		科目	決算金額
		前年度繰越金	395,537
		同窓会費	6,420,000
		基金より組み入れ	2,000,000
		雑収入	22
		<b>合計</b>	<b>8,815,559</b>
＜支出の部＞		科目	決算金額
		<b>運営費</b>	<b>2,005,048</b>
		庶務費	1,426,000
		事務管理費	263,321
		役員会費	260,145
		通信費	40,582
		渉外費	15,000
		交通費	0
		<b>組織活動費</b>	<b>1,376,040</b>
		名簿管理費	949,312
		名簿作成助成費	10,216
		同窓会入会式費	416,512
		<b>学部援助費</b>	<b>120,000</b>
		事務援助費	0
		教育文化助成費	120,000
		<b>事業活動費</b>	<b>1,261,395</b>
		成果刊行費	691,200
		会議費	477,075
		事務費	93,120
		<b>広報活動費</b>	<b>2,571,574</b>
		印刷費	1,266,387
		通信費	1,305,187
		次年度繰越金	1,481,502
		<b>合計</b>	<b>8,815,559</b>

### ●事業活動基金

＜収入の部＞		科目	決算金額
		前年度繰越金	40,760,966
		利息	3,196
		<b>合計</b>	<b>40,764,162</b>
＜支出の部＞		科目	決算金額
		貸金庫料	8,640
		通常口座へ組入れ	2,000,000
		次年度繰越金	38,755,522
		<b>合計</b>	<b>40,764,162</b>

### ●教育実践事業基金

＜収入の部＞		科目	決算金額
		前年度繰越金	3,038,696
		利息	1,307
		寄付金	200,000
		<b>合計</b>	<b>3,240,003</b>
＜支出の部＞		科目	決算金額
		教育実践論文顕彰費	406,000
		次年度繰越金	2,834,003
		<b>合計</b>	<b>3,240,003</b>

令和元年 6 月 2 日評議会で承認済み。

# 平成30年度(第34回) 教育実践研究助成事業の報告

事業部会長 原 尚  
昭和53年度 体育学科卒業

## 1 応募状況と傾向

◇応募者総数：1,030人(前年1,196人)

- ・応募者総数の前年比166人減は、教職員数の純粹減に加え、「働き方改革」の影響も考えられる。(次年度に向けて対応が必要であろう。)
- ・例年通り、20代・30代の応募が全体の8割を占めている。今日的な課題である若手の育成に積極的な学校現場の様子がうかがえる。
- ・養護教諭、事務職員の応募が、この10年間の中では最高の応募となり、特に事務職員の増加が顕著である。学校経営への参画意識の高さが見て取れる。
- ・小中別、領域別の内訳は、例年と同様の傾向であるが、特別支援教育の重要性が叫ばれている中、この領域での応募を高めたい。
- ・どの論文も教師の児童生徒に対する熱い愛情を感じさせるものであった。

## 2 審査会の報告

(1)経過

H31/1/11 応募者は学校を通して  
市町村教育委員会へ提出  
【市町村教育委員会で審査】



H31/2月中旬 第一次審査会  
【各教育事務所で審査】



H31/2月下旬  
【県教委：教育研修課で審査】



H31/03/05 第二次審査会



H31/03/13 最終審査会

＜最終審査をお願いした皆様＞

学識経験者、教育研修課研修企画監、同課長補佐、  
各教育事務所長、同教育支援課長、都市教育長会  
長、町村教育長会長、県小中学校長会長、県小学校  
長会長、県中学校長会長 (総人数21名)

(2)審査の観点

- ①今日的な課題を踏まえ解決の方向が明確になっているか。
- ②目的、計画、指導、評価の一体化が図られているか。

- ③児童生徒の成長や変容の姿が現れているか。
- ④研究及び実践内容に創造性・妥当性が見られ、説得力があるか。
- ⑤教育実践、研究論文として明確な記述であるか。

(3)平成30年度「最優秀賞」

関市立富岡小学校 教諭 土屋 寿美

資質・能力を伸ばし、生かすことができる子の育成  
～理科の見方・考え方を働かせ、  
自ら学び続ける授業を通して～

＜特に優れている点＞

- ＊学習指導要領改訂の趣旨、目標や内容等を正しく捉え、理科教育の今日的な課題も踏まえながら、必要となる資質・能力を整理し直している。
- ＊仮説、実践、検証、改善という過程を踏まえて2年間のスパンで継続的・累積的に取り組み、説得力がある。
- ＊質問紙調査や児童のノート記述をていねいに拾い上げ、児童の成長や変容を的確に捉えている。
- ＊主張点が読み手に伝わるように、図・グラフ・写真等を目的に応じて使用している。

## 3 今後に向けて（最終審査会から）

- ・「目的—方法—結果・考察—結論」の手順を踏まえ、より説得力や汎用性がある論文に仕上げたい。
- ・どの論文からも実践者の強い思いを感じられるが、文字の囲みや強調などの統一性、図やグラフ等の効果的な使い方に配慮したい。
- ・独自性のある言葉は、論文中で必ず定義する必要がある。
- ・昨今の学校現場の現状を踏まえ、応募者や審査に当たる方の負担を考慮し、執筆要領や審査会提出資料の簡素化を検討する。





# 平成30年度(第34回) 岐阜県小中学校 教育実践研究論文受賞者一覧

最優秀賞(1編)			
関市立富岡小	土屋 寿美	資質・能力を伸ばし、生かすことができる子の育成 ～理科の見方・考え方を働かせ、自ら学び続ける授業を通して～	<理科>

優秀賞(9編)			
各務原市立那加第二小	本間 祐一	よりよい社会の実現を目指す子が育つ社会科学習 ～社会との関わり方を選択・判断する授業を通して～	<社会>
山県市小中学校教育研究会	事務職員部会	教職員の働き方改革を推進する「学校事務」のあり方 ～「研修・連携・スリム化の推進」と「事務をつかさどる学校事務職員」の可能性を求めて～	<学校事務>
本巣市立糸貫中	大西 昭裕	自ら考え、学び合う道徳授業の創造 ～生徒一人一人が、自己を見つめながら人間としての生き方を考え議論する指導方法の在り方～	<特別の教科道徳>
大垣市立興文中	浅倉 健介	主体的・対話的によりよい運動を求め続けることを通して運動技能向上の実感がもてる生徒の育成 ～学び続ける基盤づくりと単元構成の工夫を通して～	<保健体育>
垂井町立垂井小	平野 大輔	生き生きとコミュニケーションを図る子どもの育成 ～自己肯定感や自己有用感の向上を目指して～	<外国語活動>
東白川村立東白川中	武市 諒太郎	言語感覚を磨き、適切に表現する生徒の育成 ～新学習指導要領移行に伴う“三つの柱”を意識した新たな実践を通して～	<国語科>
恵那市立恵那西中	松村 香里	言語能力と考えの形成を自覚する国語教室の創造	<国語>
中津川市立南小	楯 朝忠	社会とかかわる子を育てる社会科指導のあり方	<社会>
白川村立白川郷学園	山元 紀子	自らコミュニケーションを求め学び続ける子の育成 ～9年間を見通した第5,6学年の英語学習の指導の在り方～	<外国語活動>

優良賞(40編) ※主題・副題は省略して紹介します。								
岐阜市立長良小	森田 光	体育	大垣市立東小	渡邊 翔太郎	社会	御嵩町立伏見小	山田 康弘	社会科
岐阜市立加納小	神田 高志	特別活動	海津市立石津小	竹谷 哲郎	理科	多治見市立精華小	杉浦 真弓	生活
岐阜市立長良西小	渡邊 紘子	英語	養老町立養北小	森 俊郎	理科	多治見市立滝呂小	江崎 紀子	算数
岐阜市立長良東小	小谷 公也	算数	神戸町立下宮小	葛西 記予子	国語	土岐市立下石小	加藤 大貴	総合的な学習
岐阜市立長良東小	辻田 結衣	健康安全	神戸町立神戸中	小野寺 穂菜美	美術	瑞浪市立瑞浪小	高森 恵	国語科
岐阜市立梅林中	勝野 陽介	社会科	揖斐川町立大和小	野原 江利子	健康安全	恵那市立恵那西中	遠藤 啓太	社会
羽島市立足近小	丸山 美幸	生活	池田町立池田小	戸倉 真紀	音楽	恵那市立恵那東中	小島 伊織	生徒指導
羽島市立小熊小	西 薫	外国語活動	関市立南ヶ丘小	後藤 正行	道徳	中津川市立坂本中	松原 有宏	生徒指導
各務原市立鷺沼第二小	荒川 千登世	健康安全	美濃市立美濃中	恒川 佳奈	社会	高山市立国府小	田原 幹也	体育
各務原市立川島小	中野 美奈子	学級経営	郡上市立牛道小	永田 千奈津	外国語活動	高山市立日枝中	加藤 陽介	生徒指導
瑞穂市立穂積中	井嶋 潤	学級経営	郡上市立白鳥中	山田 麻衣	英語	飛騨市立山之内村中	松久 卓矢	社会
笠松町立松枝小	河邊 和恵	生活	美濃加茂市立太田小	高橋 宏輔	理科	下呂市立下呂小	斎藤 成	特別支援
北方町立北方小	勝野 静恵	国語	可児市立広見小	奥村 尚浩	管理経営			
大垣市立興文小	平松 恭代	国語科	八百津町立和知小	杉本 繁征	道徳科			

新人賞(24編) ※主題・副題は省略して紹介します。								
岐阜市立長良東小	飯沼 広樹	音楽	大垣市立興文小	浅野 真奈美	社会	八百津町立八百津小	山本 勇斗	体育
羽島市立中央小	阪井 真綾	家庭	養老町立養老小	河合 怜奈	社会	多治見市立小泉小	安藤 宜尚	社会
各務原市立鷺沼第二小	林 誠悟	社会	垂井町立東小	岡田 真理子	外国語	瑞浪市立瑞浪小	藤永 優香	健康安全
瑞穂市立南小	原 明美花	健康安全	神戸町立北小	杉本 大昂	社会	恵那市立明智小	澤崎 美奈江	国語
本巣市立一色小	廣瀬 美可子	算数	美濃市立藍見小	本田 阿里紗	算数	中津川市立落合小	板津 裕保	生活
岐南町立北小	白井 あかり	健康安全	関市立緑ヶ丘中	二村 康太	数学	土岐市立泉中	渡辺 英弘	道徳
山県市立高富中	宮田 拓実	技術・家庭	美濃加茂市立古井小	奥村 彰秀	国語	高山市立西小	榊原 美穂	生活
北方町立北方中	高橋 亮	道徳	美濃加茂市立古井小	大畑 和也	社会	高山市立朝日中	伊佐治 千穂	音楽

第34回教育実践研究論文の優良賞・新人賞の主題・副題は、同窓会ホームページよりご覧いただけます。



# 着任された教員の皆様からのご挨拶

## 橋本 操 先生

社会科教育講座（地理学）・准教授

地理学の大きな1つのテーマである「人と自然環境との関係」を研究テーマにしています。とりわけ、クマやシカ、イノシシなど野生動物による獣害の発生要因と対策、狩猟による野生動物の肉（ジビエ）利用、近世の頃に造られたシシ垣の遺構の保存活用など、「人と野生動物との関係」について研究をしています。自分の足を使ったフィールドワークとGISを用いた分析、時には生態学などの他分野の分析手法を用いるなど、独自の研究スタイルを確立してきました。最近、集中豪雨などによる土砂災害や洪水等の自然災害の発生を受けて、まちあるきやWebGISを用いた防災教育にも関わっています。まちをあるき、地図化する作業を通して地域を見つめることは、過去から現代までの歴史的な環境の変化など、たくさんの気づきを子ども達にもたらしめます。近年の自然災害の発生に備えて、子ども達が「生きる力」を身につけるための授業づくりにも関わっていきたいと思っています。

## 林 日佳理 先生

英語教育講座・助教

2018年10月より英語教育講座の英語文学担当として着任いたしました。私は現代アメリカ文学を専門としており、主に1980年代から2000年代の小説作品について、作品の技法や構成の特徴と、そこに映し出されている時代精神の変化や社会の動きとの関連について研究しています。文学は、どれほど突飛な、架空の世界の物語であっても、それが書かれた当時の社会や人々の考え方を反映していると考えることができます。それらの文学作品をもとに、自分とは異なる国や時代に生きた人々について、言葉を通して理解しようと努めることは、外国語を学ぶことの根本にある他者への好奇心や相互理解の難しさを実感する絶好の機会だと思います。教育学部の学生たちが将来教員として、英語を学ぶことの楽しさや奥深さを若い世代に伝えることができるように、文学の知識や英語の運用能力だけでなく、言葉を通して人と関わることの魅力を伝えていきたいと思っています。

## 長倉 守 先生

教職実践開発専攻・准教授

教職大学院の教育課程、カリキュラム・マネジメント担当として着任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

研究テーマは、教育課程、カリキュラム・マネジメントを基軸としたよりよい学校づくりや授業づくりです。教育目標の達成に向け、子どもたちにどんな学びの経験が求められるのか、その準備や実践にあたりどんなことに留意するべきなのかについて、現実と向き合いつつ、理論的・原理的、実践的に研究しています。

新しい学習指導要領では、社会に開かれた教育課程、カリキュラム・マネジメント、主体的・対話的で深い学びなど、さまざまな理念が提示されています。一方で、これらを具現化するにはどうしたらよいのか、ともに考えてほしいといった声もいただいています。

これまでの研究成果、学校現場や教育委員会での勤務経験を踏まえ、各学校の実態や課題に応じた学校づくり、研修や授業研究、カリキュラム開発などに協力をさせていただければ幸いです。

## 退職教員のご紹介

平成31年3月31日をもって、  
退職された教員は次の通りです。

早川 万年	教授	社会科教育（史学）
橋本 治	教授	教職実践開発専攻

## 訃 報

岐阜大学教育学部において、A C T支援員、進路相談員として学生の教育および進路指導にあたられ、本同窓会においては事業部会長として長年ご尽力いただいております山田正昭先生が2019年6月4日17時38分にご逝去されました。

生前のご功績に敬意を表し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

# アーカイブ・コア (ARCHIVE CORE)

岐阜大学は2019年に創立70周年を迎えました。これに先駆けて、岐阜大学創立70周年プロジェクトが組織され、このプロジェクトの一環として、岐阜大学図書館2階に「アーカイブ・コア (ARCHIVE CORE)」が新設されました。

アーカイブ・コアには、岐阜大学内で収集・保管されてきた歴史資料や学術資料、学内で制作されてきた作品等を収蔵・展示する機能を持つ「PRAETER(プラエテル)」と、岐阜大学で現在行われている研究を概観できる機能を持つ「FUTURUM(フトゥールム)」という2つのエリアがあります。

PRAETERには、防虫対策・温湿度管理がなされた収蔵庫が設置され、教育学部が師範学校時代から収集・保管してきた資料(岐阜大学教育学部附属郷土博物館所蔵資料)は、この収蔵庫に移設されました。PRAETERは見学時間が決められており、その時間内に図書館への入館手続を行っていただければ、見学ができます。詳しくは岐阜大学図書館のホームページをご覧ください。



アーカイブ・コアの FUTURUM エリア



FUTURUM エリアの研究紹介コーナー

岐阜大学の教員がどのような研究を行ってきたのか、または現在どのような研究を行っているのかが外観できるコーナーです



PRAETER エリアの資料展示コーナー

教育学部の歴史資料、応用生物科学部の剥製標本、医学部の解剖図などが展示されています



PRAETER エリアの収蔵庫

温湿度及び防虫対策が必要な教育学部所蔵の歴史資料及び学術資料はすべて保管されています

# 新人先生奮闘記

美濃市立昭和中学校教諭 篠田 真由子

平成 26 年度 音楽教育講座 卒業



## 音楽科で良かったなと思うことは何ですか。

合唱指導をする機会があるということです。

初任の3年間は笠松町の松枝小学校でお世話になりました。松枝小学校では、毎月歌声朝会というものがあります。委員の児童と一緒にその月の歌で気を付けることや技などを、全校児童に伝えるというものです。音楽科の教師は歌のお姉さんとして全校の前に立ちます。「全校のみなさん、こんにちは〜！」とNHKの「おかあさんといっしょ」のお姉さんのように登場します。もちろん全校の前で、一人で歌う場面もあります。歌に自信が無く、合唱指導をしたことがない私には重圧でした。しかし、毎月それぞれの歌のポイントは何かを考えたり、低学年の児童にも分かるようにするためにはどうしたらいいか考えたりするうちに、合唱指導が楽しくなってきました。全校児童が一生涯懸命歌う姿を見るとうれしく、やりがいを感じられるようになりました。

そして、現在お世話になっている昭和中学校では、音楽の授業の他に、有志が昼休みに集まって合唱練習をする、「もみじ谷少年少女合唱団」というものがあります。普段授業では扱わないような合唱曲を練習しています。中学生の厚みのある歌声、細かいところまで丁寧に歌い上げる姿など、いつも感心させられています。生徒たちに負けてはいられないと、私も曲分析をして一緒に合唱を高めていっています。

このように小学校でも中学校でも、合唱指導をさせて頂く場を設けてもらっていることにとっても感謝しています。音楽科の先輩方にもたくさん教えて頂いたことが今の私の力になっています。そしてなにより、子どもたちから教わることで多く、刺激ももらっています。まだまだ力不足なので、もっと成長していけるよう、頑張ります。

## 保護者との会話で気を付けていることは何ですか。

その子や保護者の方の思いを否定しないということです。現在、中学の特別支援学級の生徒の担任をさせて頂いています。3年生の進路指導をするにあつ

て、管理職の先生方から、「夢をあきらめさせないで。否定するのではなく、その子にとってよりよい進路と一緒に考えていく姿勢を大切に。」と、教えて頂きました。そこで、今学校生活でできることは何か考えたり、進路に関する情報を集めたりして少しでも寄り添うことができるように心がけています。毎日連絡帳で保護者の方とやり取りをしていますが、学校で頑張ったことや良かった姿を中心にお伝えできるようにしています。

## 夏休み等の長期休暇はどのようなことをしていますか。

今年の夏休みは、中体連の県大会や東海大会の引率、高校見学の引率等であちこちに行きました。普段、自分で運転をして遠出することがあまりないため、東海大会では、現地に着くまでとても緊張しましたが、無事会場に着き、生徒を応援することができ、良い経験となりました。高校見学では、各校の説明を聴いたり見学したりさせて頂き、それぞれの学校の特色を知ることができました。夏休み明けの進路指導に役立てたいと思います。

長期休暇はいつもより時間にゆとりがあるので、2学期の授業で扱う教材の分析や、研究授業の指導案の作成も一部できました。少しは心に余裕をもって授業に臨むことができると思います。

もちろん、友人と久しぶりに会い、ご飯を食べながらお互いの近況報告をし合ったり買い物に行ったりとリフレッシュもしました。仕事の話もそうでない話も何でもできる友人は、やはりかけがえのない存在だと改めて実感しました。



# 活躍する同窓生

海津市立日新中学校校長 服部 公彦

昭和57年度 物理化学科(化学) 卒業



## 今のお仕事について教えてください。

今年度より、海津市立日新中学校でお世話になっています。教員生活も残り2年となり、自分の生まれ育った海津の学校で勤務できることは、この上ない喜びです。海津市の未来を担う子供たちの教育に携わることができ、身の引き締まる思いがします。349名の生徒一人一人の夢や希望の実現に向けて、学校の教育目標『共に高め合い 自立する生徒』の具現に35名の教職員と共に努めています。

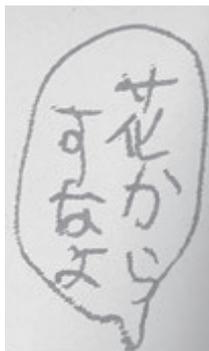


【5/15 祝改元記念 日新中生徒全員で人文字づくり「和」】

## 教師になられてから大切にされたことを教えてください。

教員になって間もない頃、中3のAさんを担任しました。学級のムードメーカーでしたが、彼は気分がムラがあり、肝心なところで手を抜いてしまうところがありました。そんな彼に、鉢植えの木の水やりを頼みました。彼は「いいよ。」と頼まれたことをうれしそうに答えてくれました。そうは言っても、本当にできるのか半信半疑でした。しかし、なんと卒業まで水やりは続いたのです。きっと、彼はどこかで学級に貢献したいと考えていたのだと思います。

そんな彼が卒業するとき、私への寄せ書きに「花、からすなよ。」



【Aさんの言葉】

と言葉を贈ってくれました。私は、「これからもひとりを大切にしてください。」という彼からの心からのメッセージだと受け止め、この言葉を大切にしてきました。

## 岐阜大学で学ばれたことが今に生きていますか。

化学科の一番の特徴は、講義だけでなく、実験・実習が多くあったことです。理論通りの結果が得られるとは限りません。様々な条件で変化し、自分の思う結果にならないこともしばしばです。けれど、結果は事実であり、そこに隠されている真実こそが大切であることを身を以て教えていただきました。事実を大切にする教育は、今も自分の教育観の中心にあります。

## 後輩の岐阜大学生へ贈る言葉をお願いします。

日新中では、生徒会が『つなぐ～自分と仲間 思いを一つに～』をスローガンに掲げ、日常生活を自分たちの手で充実させようと活動しています。先日も、登下校のカバンの重さに課題をもち、アンケートを取りながら、自分たちでできまりを見直し、改善案を提出してくれました。

子供たちの成長は本当にうれしいものです。教師にしか味わえない感動です。

未来の岐阜県、日本を担う人づくりを是非、自身の人生の真ん中に置いてみませんか。



【6/12 生徒会執行部の改善案提出の様子】



## 岐阜県中濃子ども相談センター

所長 中島 康徳

平成元年度 教育学科(心理) 卒業

### 今のお仕事について教えてください。

子ども相談センター（児童相談所のことです。以下、子相という）の所長として3年目になります。教育学部教育学科の心理学専攻を卒業し、平成2年に岐阜県庁の心理職として入庁しました。今年で県職員生活29年目を迎えますが、3分の2は子相での勤務となります。今の職場で子相勤務は5回目です。

平成2年の最初の勤務地が子相であり児童心理司（当時は心理判定員と言いました）という子どもに検査をしたり、不登校の子どもとの相談を受けたりすることが主な仕事でした。子相では治療的なかかわりができると思い、岐阜県職を受けましたが現実はそのようではありませんでした。これは、子相では心理職の専門性が発揮できない、心理としてのやりがいがない、ということでは決してありません。子相は行政機関としての相談機関であり、18歳以下の子どもへのあらゆる相談に対応している機関です。子相しか持ちえない権限を有し、その決定に責任を負っています。その最たるものが児童虐待の相談です。

最初、私は児童心理司として子相に勤務しましたが、2回目以降は児童虐待のケースワーカーとして勤務しました。岐阜県では福祉職を採用しており、通常は福祉職がケースワーカーになります。しかし私は心理職でしたがケースワーカーを希望しました。虐待の程度によっては、ケースワーカーは

親の意向に反して子どもを保護します。児童心理司は一貫して子どもの心に寄り添い安心感を与えます。

子相の業務は子どもの健全な成長・発達の保証とその家族の支援という、大変ではありますが、非常に大きなやりがいと使命感にあふれた仕事内容です。私は子相の仕事にやりがいと誇りを持っています。

### 岐阜大学で学んだことが役に立ったと感じるときはありますか。

私が一番印象に残っているのは、当時の行動心理学の時間に教授からクルト・レビンの「場の理論」の中の  $B = f(P \cdot E)$  という法則を聞いたことです。人間の行動は、本人のパーソナリティと、本人を取りまく環境の2つを変数とする関数で表される、というものです。

子相のケースワークにおいて、その行動には必ず理由があると捉え、虐待行為のメカニズムを本人の特性とそのおかれている環境の相互作用の中で捉えず考えるようにしています。

心理学を学んだことは、県職員としての子相はもちろん、福祉事務所、児童自立支援施設、そして県庁の行政の仕事においても、幅広く役立っていると思います。特に虐待対応のケースワーカーにとっては心理学的な考え方は非常に役に立ちます。今、所属長として係員をみてもベースに心理学の知識のあるものは対人援助技術に長けているように感じます。

### 岐阜大学卒業後に新たに学んだことや、学び直したことはありますか。

心理学の分野についての知識はある程度ありましたが、ソーシャルワーカーとしての技法、考え方は、現場の経験の中で独自に培ってきたものであるため、これまでの自分の知識を整理する意味で社会福祉士の資格を取得しようと勉強しています。

### 後輩の岐阜大学生へ贈るメッセージをお願いします。

月並みですが、よく学びよく遊べ、ということだと思います。感情を激しく揺さぶられるような楽しいこと、悲しいことを経験するのいいと思います。いろんなことを経験することがその人の人間性を深め、生きていく幅を広げることになると思います。学生時代は時間だけは無限にあります。学生時代に打ち込める何かを発見できるといいと思います。寝食を忘れて何かに打ち込めたという経験はきっとその後の自分を後押ししてくれると思います。



【可茂総合庁舎】



## 日本マイクロソフト株式会社

Microsoft 365 ビジネス本部  
エグゼクティブプロダクトマネージャー  
**春日井 良隆**

平成3年度 社会学科(哲学) 卒業

### 卒業から今の仕事に至るまで

昭和が平成に変わった頃、私は岐阜大学を卒業して、大沢商会という商社に就職しました。商社への強い志望動機があったわけではありません。商社なら当時、興味があったファッション、スポーツ、輸入車のどれかに携われるだろう、そんな安直な考えしか持ち合わせていませんでした。その頃の私は何よりも東京に行きたかったのです。

しかし、希望の部署への配属は叶わず、電子情報部という想像もしなかった部署への配属となります。なにをしている部署なのか、そこで自分は何をするのか、全く想像ができません。がっかりしながら辞令を受け取ったことを覚えています。ただ、この配属が、私のその後の人生を決定づけることとなります。

電子機器を取り扱うこの部署で、当初は機械の営業をしていましたが、隣のチームが新規事業として始めたApple Macintoshのビジネスに興味を持ち、双方の上長に直談判をして異動し、人が少なかったこともあり、営業だけでなく、マーケティングもすることになりました。ITとマーケティングの楽しさに気づいたのがこのときです。ただ、その商社は経営が傾き始めていました。そこで、若手社員も対象となった早期退職者制度を利用して、アドビシステムズという米国のIT企業に転職します。社会人になって5年目のことでした。

アドビでは念願叶ってAdobe Premiere, Adobe After Effectsというビデオ編集ソフトのマーケティングを

任されました。PCで映像が作れるようになったばかりの黎明期です。知らないことばかり、分からないことばかりでも、全く新しい市場を生み出している手応えが楽しくて仕方なく、寝る暇も惜しんで働きました。米国の会社なので、英語が使えないと話になりません。受験の頃よりも辞書を引いて、片っ端から例文を頭に叩き込み、恥ずかしがらずに会話に飛び込んでなんとか英語を覚えました。

気がつけば9年、この仕事に没頭していました。おかげで業界では知られた存在になっていましたが、一方で危機感も覚えていました。自分は成長していない、このままではまずいという焦りです。その頃、ちょうど始まったばかりのニコニコ動画やYouTubeに触れて、将来、映像はテレビではなく、インターネットが主戦場になるだろうというおぼろげな予感がありました。

そこで、既にIT業界の巨人となっていたMicrosoftに転職しました。Silverlightというまさに動画をインターネットに配信する技術のマーケティングやエバンジェリスト(IT業界では技術啓蒙をする人をこう呼びます)を経て、現在はWindows10とOffice365、中でもMicrosoft TeamsとMicrosoft Edgeに責任を持っています。

この夏までは教育市場のマーケティングをしていました。教育学部附属学習協創開発研究センター、岐阜市教育委員会、CANVAS、日本マイクロソフトが連携して始めたプログラミング教育の人材育成するプロジェクトに関わった縁でこのような寄稿をさせていただ

くことになりました。昨年末、中津川市にある実家に帰省した際には白川町立黒川小で教務主任を務めるかつての同級生の教室でmicro:bitを使ったプログラミング教育をしてきましたし、この夏には岐阜大学が岐南町の小学校で実施したプログラミング授業をお手伝いしてきました。

### 同窓生に贈るメッセージ

教育学部を卒業しながら、教職には興味を持たなかった人間が30年近い年月を経て、こうして、教育に関わっていることに不思議な縁を感じます。

今は業務として教育に関わることはなくなりましたが、プログラミング教育にはライフワークとして取り組んでいます。せっかく教育学部卒の人間がITの世界にいるのなら、プログラミング教育にいま持ちうる経験や知見を還元したい。それが切なる想いです。



# 各学科同窓会の活動

事務局より原稿依頼を行い、原稿が届いた学科のみ掲載しています。

## 音楽

担当者：杉本 公彦  
連絡先：岐阜市立三輪北小学校 ☎058-229-1103

### ○卒業記念コンサートへの応援

【期日】平成31年2月16日(土)

【会場】サラマンカホール

毎年行われます「卒業記念コンサート」では、大学で学ばれた集大成としての素敵な演奏を発表されます。同窓会として、皆さんの晴れ舞台を応援させていただきました。

### ○第18回 岐阜大学教育学部音楽学科・音楽教育講座同窓会総会及び懇親会の開催

【期日】令和元年11月17日(日)

【会場】グランヴェール岐山

3年に一度、令和元年の「総会」ということで、今回は同窓会の役員も大きくリフレッシュしました。特に若い皆さんが企画の中心となってくださり、まさに新しい時代の幕開けにふさわしい「総会」を開催することができました。

また、今年で第44号となる、歴史と伝統ある会報「間(ま)」も、若い委員さんの情熱によって、素敵な会報ができあがりました。



## 英語

担当者：市村 一  
連絡先：岐阜県教育委員会 学校支援課 ☎058-271-3699

3年に一度実施している英語英文科・英語教育学科同窓会(ランタン会)を、平成31年2月3日(日)に、グランヴェール岐山にて行いました。63名が参加をした総会では、同窓会会長 後藤信義氏の挨拶に続き、新同窓会長 深尾雅人氏以下10名の新役員が選出され、全会一致で承認されました。

講演会では、岐阜女子大学学長 松川禮子氏に『英語教育の思い』と題して、元県教育長を振り返っての思いや、今後の岐阜県の英語教育に期待すること等をお話いただきました。

その後の懇親会では松川先生にもご参加いただき、和やかな雰囲気の中、世代を越えて交流を深めることができました。次回は3年後の開催になります。若い世代の方々にも多く参加していただき、会を盛り上げていきたいと思っています。

## 地理

担当者：坂口 亨  
連絡先：海津市教育委員会 学校教育課 ☎0584-53-1499

### 1. 第45回同窓会「濃飛の集い」

第51回生(代表 前田 亮)が担当

【日時】令和元年8月24日(土) 10:00~12:30

【会場】岐阜県図書館(岐阜市宇佐4-2-1)

#### (1) 総会

- ・開会あいさつ
- ・代表あいさつ
- ・参加者自己紹介
- ・恩師の先生方のお話(野元先生・大関先生・橋本先生)
- ・諸連絡
- ・閉会あいさつ

#### (2) 講演会

演題「地図の館 岐阜県図書館～所蔵地図の魅力と活用～」

講師 西村 三紀郎氏(岐阜県図書館 サービス課 郷土・地図情報係)

岐阜県図書館の地図・分布図所蔵数は約15万点、古地図から海外で作られた外邦図など所蔵内容も多岐にわたることから、まさに「地図の館」という印象を受けました。

講演では、所蔵地図の利活用状況について、具体的事例を挙げて説明いただくとともに、所蔵しているだけでなく、地図がもつ有用な情報を広く発信するという「地図の館」岐阜県図書館ならではの役割を、今後も果たしていくことについて述べられました。

学校教育や防災等様々な場において、地図や分布図を利活用する大切さを知る有意義な機会となりました。



#### (3) 収蔵庫見学

安田 正治氏(岐阜県図書館 サービス課 郷土・地図情報係)の案内により、収蔵庫を見学しました。

普段は一般の方が入ることのできない収蔵庫へ入り、戦時中の外邦図や葛飾北斎の古地図等、貴重な地図や分布図を閲覧することができました。

### 2. 次回活動予定 令和2年8月22日(土) 第52回生が担当

1 2019年度の活動

(1)同窓会総会・懇親会準備

2019年2月17日(日)に役員会,2019年4月21日(日)に年次代表者会議を開催しました。また,2019年7月15日(月・祝)に幹事5名で直前準備を行いました。

(2)現況調査及び会員名簿作成・発送

年次代表者会議の場で,年次代表者の方に当該年度の現況リスト(2019年4月抽出データ)をお渡しし現況調査依頼しました。その結果を,幹事1名が5月締で集約し,6月10日に岐阜大学同窓会事務局宛にレターパックにて提出しました。

岐阜大学同窓会事務局で訂正済のデータを7月にダウンロードし,名簿原稿として加工したうえで印刷業者へ入稿,7月31日に特定記録郵便にて個別発送しました。

(3)同窓会総会・懇親会

同窓会総会・懇親会を2019年8月4日(日)にホテルグランヴェール岐山で開催しました。

総会では,次の3議題が承認されました。

議題1:顧問職新設に伴う役員1名増を含む新役員4名・新幹事5名の選出

議題2:名簿発行廃止(今回が最終発行)

議題3:議題1及び2を反映し,かつ実態に即して微修正した規約改正

懇親会では,昭和25年度卒(二部)から平成30年度卒まで,全75世代が一堂に会し,元気に活躍している先輩や同級生の姿に励まされるよい機会となりました。

2 今後の活動

(1)会員現況調査

これまでどおり,毎年7月(総会開催年度は4月)各年次代表者の方に現況調査を依頼します。役員・幹事が集約し岐阜大学同窓会事務局へ結果を提出します。

(2)岐阜大学教育学部同窓会会員専用サイトの会員データの更新

現況調査の結果を岐阜大学同窓会事務局にお願いし,現況調査の結果を同窓会会員専用サイトに反映していきます。

(3)同窓会総会・懇親会

次回総会・懇親会は2024年夏を予定しています。詳細は別途ご案内します。



学科として定期的な活動を行っておらず,関係の皆様にはご迷惑をおかけしております。

事務局として,同窓会名簿関係の業務を進めています。今後ともよろしく願い致します。

◇同窓会・研究会活動

○「卒業論文・修士論文発表会」への参加

○「地学年末研修会」の参加

【期日】平成30年12月29日

【会場】石金

【内容】実践交流会,研究会,親睦会など

平成30年度も若手の先生だけでなく,ベテランの先生方,ご退職された先生方からの多くの実践や研究結果の発表をしていただきました。

	発表の先生	発表の主旨や内容
第1部	初任～2校目の若手の先生	日々の授業実践や研究授業での実践報告,開発した教材や作成した指導案を資料として提示し,実践の成果を発表しました。ベテランの先生方から多くのアドバイスをいただく機会になっています。
第2部	中堅で活躍されている先生	授業実践だけでなく,科学の甲子園ジュニアや多種教育実践論文への応募の紹介など様々な取組について報告がありました。
第3部	ベテラン～各方面で活躍されている先生	岐阜県の地質に関する情報,天体に関する様々な取組など,多方面にわたる理科に関する活動について参観者が大変勉強になる機会となりました。

※毎年,12月29日に開催しています。参加していただける方は,事務局まで連絡をお願いします。

(1)平成30年度 優秀選手表彰

平成31年2月5日(火):体育学科卒業論文発表会にて実施  
本年度は13名の大学の現役選手の表彰を行いました。

(2)平成31年度 同窓会入会式

平成31年3月25日(月):卒業式後に実施  
本年度は19名の新会員の入会がありました。

(3)令和元年度 同窓会総会及び還暦お祝いの会・懇親会

令和元年6月8日(土)

会 場:グランヴェール岐山

出席者:96名

毎年,原則6月の第二土曜日に開催しています。総会とともに,還暦を迎えられた方のお祝いと懇親会を行い,親睦を深めています。



その他の各学科同窓会事務局連絡先

学科	担当者	電 話
法経	丸山 靖生	羽島市立桑原学園 058-398-8500
哲学	井上 達也	西濃教育事務所 教育支援課 0584-73-1111
物理	奥田 好紀	郡上市立大和北小学校 0575-88-2007
化学	野田 国宏	羽島市立竹鼻小学校 058-392-3000
生物	山村 雄太	岐阜大学教育学部附属中学校 058-271-0320
美術	清水 也人	北方町立北方西小学校 058-323-2600
技職	大羽 淳也	岐阜大学教育学部附属中学校 058-271-0320
教育	安田 和夫	0584-78-1883

## 数学

担当者：山路 健祐  
連絡先：瑞浪市立瑞浪北中学校 ☎ 0572-66-1053

### (1) 総会

【開催日】令和元年5月12日(日)

【会場】岐阜大学教育学部 本館7階 大会議室

【講演】白川町立白川北小学校 教頭 藤井英隆 先生

演題「新学習指導要領全面実施に向けて～算数・数学教育で今取り組みたいこと～」

【研究会】発表者 61期生 岐阜市立東長良中学校 渡辺脩哉ラファエル 教諭  
57期生 岐阜大学教育学部附属小学校 小暮あゆみ 教諭

今年度より、岩田恵司名誉教授が会長に就任しました。総会当日は、山田雅博教授にも参加していただくことができ、約50名の会員の方と共に充実した研究会を行いました。

### (2) 本年度の活動計画

○数学科卒業予定者に対して、数学科同窓会「わしょう会」の組織・規約等の説明会を行う。(令和2年1月予定)

○運営委員会を行い、来年度以降の計画を立案する。(令和2年1月予定)

### (3) その他

○岐阜大学教育学部同窓会事務局の会員管理システムについて住所や勤務先に変更がある場合は、岐阜大学教育学部同窓会ホームページから「会員専用サイト」にお入りいただき、各自で修正をお願いします。

○令和2年度8月に夏季研究会を予定しております。ぜひ多くの会員様にご参会いただきますようお願いいたします。



## 史学

担当者：山元 祐介  
連絡先：山県市立高富中学校 ☎ 0581-22-1063

### 「史明会」総会の開催

【期 日】令和元年 8月24日(土)

【会 場】ホテルグランヴェール岐阜

### (1) 総会

およそ30名の同窓生が参加しました。新役員の紹介、事業報告、会計報告を行い、9名の新入会員があったことが報告されました。

### (2) 講演会

前岐阜大学教授早川万年先生をお招きし、「地方史の記述と資料」について講演していただきました。史料を根拠としつつ地方史の視点から歴史を見直すことについてお話いただき、常に自己の歴史観を問い直すことへの思いを新たにしました。

### (3) 懇親会

講演会終了後に懇親会を行いました。およそ20名の同窓生が参加し、早川先生を交えながら大学時代の思い出や近況について語り合い、世代を超えて親睦を深めることができました。

※令和2年度の史明会総会及び講演会・懇親会は、8月22日(土)に開催します。多くの皆様方のご参会をお待ちしております。



## 編集後記

先日、教育学部2年生の実習「教職リサーチ」で、とある小学校を訪問しました。実習前の学生の消極的な姿を見ていた私にとって、非常に不安を抱えながらの訪問でした。しかしながら、実習前の消極的な姿とは一転し、児童に積極的に関わろうとしたり、自分たちの課題を自分たちで解決しようとする学生の姿を見ることができ、私は大変驚きました。また、そのような姿を見て、私は学生たちのたくましさや頼もしさを感じました。そのような成長を与えていただける実習校の先生方に、本当に感謝しています。

さて、私は最近、「学生たちが実習できることは当たり前ではない」ということを感じるようになりました。すなわち、これまでの学生が実習に一生懸命になって取り組んでくれたことや、実習校の先生方が毎年快く受け入れてくださる等、様々な方のご協力があって、学生が実習を行えるということです。当たり前のことかもしれないのですが、様々な方との繋がりを大事にすること、協力して頂けることに感

謝するという心を大事にすることを我々教員が忘れてはいけなしいし、次世代を担う学生にも伝えていかなければいけないと思います。

同窓会の意義も同じではないでしょうか。各学科の同窓会の活動記録が本誌の末尾に掲載されていますが、大学の先輩方、同級生、後輩の皆さんとの繋がりを持つことのできる、1つの良い機会だと捉えています。事実、私も同窓会に関わるようになり、先輩方から色々勉強させてもらえたり、教育・研究の幅を広げられる可能性が見出せるようになってきました。さらに、そのような機会を与えてもらったことに感謝し、次の世代の後輩たちにも伝えていくことで、同窓会による関わりを大切にしていける必要はないかと考えています。

同窓会が皆さんにとって、様々な方との繋がりを持つことができ、互いに高め合うことのできる良い機会としていただけることを、一人の同窓生として願っています。特に、若い世代の皆さんには、積極的に関わってもらえれば願っています。(広報部会 菱川洋介)

## 同窓会報第25号の表紙

《ぼくがイチバンだ》

源 愛理 (美術教育講座4年)

憎らしい。でもかわいい。犬なら許されてしまうようなそんな作品にしました。癒されてもらいたいです。



## 岐阜大学同窓会報第25号

発行日 / 令和元年11月発行

発行者 / 後藤 信義

発行所 / 岐阜大学教育学部同窓会

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1

TEL: 058-293-2344 (平日10時~15時)

FAX: 058-293-2343 (24時間)

E-mail: kyo\_doso@gifu-u.ac.jp

岐阜大学教育学部同窓会ホームページ  
<https://gifudai-kyodoso.jp/>

